

仙骨神経刺激療法とは？

香川県立白鳥病院 外科
肛門疾患・排便障害外来

【はじめに】

本人の意思に反して便が漏れる便失禁。その新たな治療法として注目されているのが、体内に植え込んだ装置で骨盤内の神経を電気刺激する「仙骨神経刺激療法」です。体への負担が少なく、高い効果が期待されています。

便失禁患者は、一説では国内に300～500万人いると言われていています。しかし、恥じらいなどから受診することがなかなかできず、専門医や治療可能な病院も少ないのが現状です。

便失禁の治療は、今までは薬や骨盤底筋訓練、生活指導等が中心でした。仙骨神経刺激療法は、平成26年4月から保険適用となった新しい治療法で、便失禁治療の選択肢が広がりました。

ただ、治療には施設基準をクリアする必要があるため、国内で実施可能な施設はまだ数カ所にとどまっており、県内は白鳥病院が唯一となっています。

【治療効果】

仙骨神経刺激療法は、欧米では2000年ごろから導入され、これまで約15万人に対して治療が行われており、8割前後の患者に症状の改善がありました。日本でも保険適応となるための臨床試験が行われ、治療を受けた患者21人のうち、半年間で18人に効果が認められ、便失禁は全体平均で週15回から3回に減少、4人は完治しました。

【対象患者】

便失禁には主に2つのタイプがあります。便意を感じることなく、気付かないうちに便が漏れる「漏出性便失禁」と、便意はあるが、トイレまで我慢できずに移動中に漏れてしまう「切迫性便失禁」です。時に漏出性、切迫性の両方を有する混合型便失禁もあります。

便失禁の原因には、出産やけがによる肛門括約筋の損傷、痔核・痔瘻・

直腸脱・潰瘍性大腸炎・クローン病・直腸癌手術後の後遺症、脊髄損傷等の神経の病気、原因がわからない特発性などがあり、仙骨神経刺激療法はあらゆる便失禁の患者が対象となります。

【治療方法】

仙骨神経刺激療法は、骨盤の中央に位置する仙骨の神経を電気で刺激する治療法です。入院していただき、全身麻酔にて刺激電極を仙骨の中にある仙骨神経にそって挿入します。2週間ほど体外型の刺激装置に接続して、試験的に仙骨神経を電気刺激します。便失禁が改善が見受けられなければ、刺激電極を抜去します。改善があれば、心臓ペースメーカーに似た4×5×0.8cm程度の刺激装置を電極に接続して、おしりの上部に植え込みます。電気刺激で少しピリピリしますが、次第に慣れてきます。また電圧の強さは患者がリモコンで調節でき、生活に支障がない範囲で電気刺激を設定します。外見上はほとんど分からず、普通に生活できるのが利点です。

電池の寿命のため約5年程度で刺激装置の交換が必要となります。

■ 仙骨神経刺激療法

